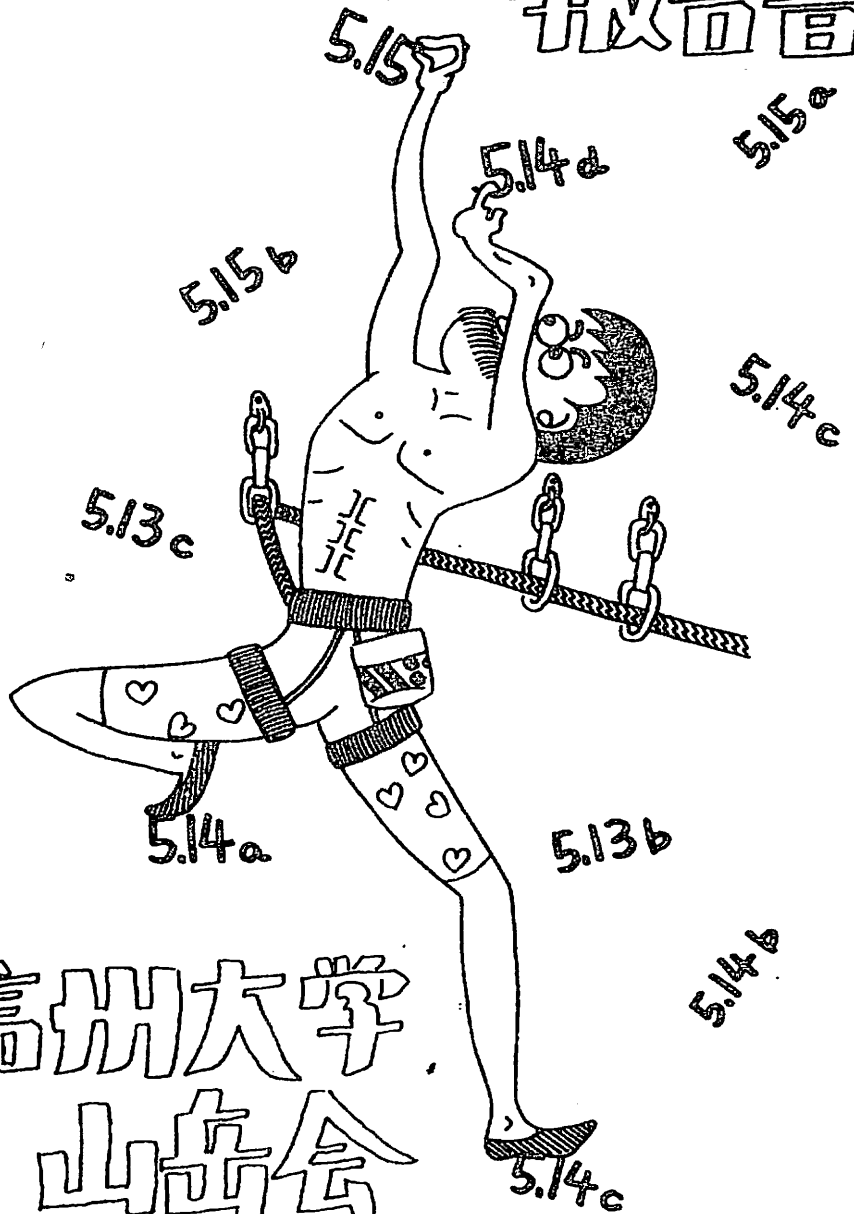


# 新人合宿 '92

## 報告書



信州大学  
山岳会

## リーダーの言葉

昨年あたりから雑人雑感がまた賑やかになってきた。読むのがいつも楽しみだが少し気になることもある。一つは弱音や言い訳が多いこと。「雑人雑感」なのだから誰が何を書こうと良いのだが、結構恥ずかしいものだ。心当たりのある奴は今度自分のを読んでみよう。2つめは雑人雑感と反比例して岩トレノートがおとなしいこと。俺が2年の時に作ったものがまだ終わらない。岩登りが上手すぎて困るということはない。6月は岩トレ後のビールが旨いときでもある。どんどん岩トレに行こう。ノルマをこなせない1年、リードが危なっかしくて見てもらえない2年は熊ノ岩でテントキーパーしてください(当然歩荷はしてもらおう)。

1年は靴ずれやズルムケ日焼けや虚脱感、「山に行きたくない病」がおさまってきた頃でしょう。今後色々な山行に行つて山の楽しさを知ってください。やる気さえあれば体力や技術はついてくるものだ。新人合宿で注意されたことは繰り返さないように。

2年は新人ゼミから合宿までお粗末でした。自分の立場をよく自覚しろ、これに尽きる。

リーダー部員には何から何までやってくれて、ありがとうと言う他ない。皆に任せきりにせずに、自分の役割を見失わないように気を付けたいと思う。

いつまでも「とりあえず無事故で良かった」を締め言葉にしたくない。無事故で当然、その上で去年の自分達を上回る山行をしたい。「山に行かない山岳会員」というのは語義矛盾だ。ウダウダ考える前に山に行こう！

藤江泰一

## 新人合宿の反省感想 橋

1年生は、この合宿で学んだことは山へ行くための基礎的なので、それをしっかりと覚えてください。2年生は、2年生という自覚をもち山へ行ってください。今年は、天気もよく無事にこなすことができました。

5/31

記録者 大谷 智子 A10-9a-1

A10-1 藤江 田尻 伴野 長谷川 松澤  
三木 流 大谷 松本

4:00 起床

4:30 出発

5:34 砂防ダム出発

6:07 二俣上補前

6:15

7:10 ~ 24 1050m 地点

8:09 ~ 24 出沢出合

9:05 ~ 23 岩倉留小屋

10:15 ~ 24 1495m 地点

11:00 ~ ~~11:17 ~ 12:05~~ ~~1810m 地点~~ 1600m 地点

12:05 ~ 31 1810m 地点

13:14 ~ 40 雪装備装着

13:57 ~ 12:50 徳本峠

15:17 ~ 40 1800m 地点

17:10 行動終了 (下止場)

感想

準備があとくち迷惑をかけた。  
明日はもっと早くまと行動したい

石井 優子

xiv. 橋口、笹森、高橋、安原、神山、田中、石井。

4=00 起床。朝食は各自で食べた。

4=30 出発

1 → 山頂まで移動。

5=30 ◎ 石の山頂に着

6=05 ◎ 二休。

7=00 ◎ 1000 m 付近。

8=15 ◎ 1150 m 付近。

9=05 ◎ 岩の上小屋

10=45 ◎ 1500 m 付近

12=05 ◎ 1700 m 付近

14=30 ◎ 徳本峠小屋

17=00 ◎ 下場

感想

自分の体力の限界を思い知ってしまった一日だった。

登山に必要とされる下りでは前に進む気はあっても体が力尽きていなくて、何處  
まで来たか分からない。

下場に入った時は本当に嬉しかった。

毎日下山ではいいものの、世間明日はまた山に登らなければならない。

6/1 記録者: 広谷 智子

メンバー 藤江, 田尻, 世森, 伴野, 宇保, 神山, 高橋  
長谷川, 松澤, 三木, 石井, 田辺, 流, 広谷, 松本

3:30 起床 (着エッセ) 夕焼け

5:30 テント場出発

6:20 徳次園 晴れ

6:30 ④

6:50 1588地点 奥又白谷の説明とまゝ 晴れ

7:10 ④

8:21 B・C 晴れ

### 感想

テント場からはり出したのは驚きいた。  
体力を7けなければと痛感した。

6/1 記録者 小林 祐哉 -晴れ-

メンバー: 長谷川(調), 兼岩, 河西, 吉沢, 博多, 小林

C18-11-

3:00 起床

3:30 長谷川さんの家まで出発

4:30 砂防ダム着 体検後 4:50発

7:05 わたし次の手前の小沢次で小休止 7:15発

10:30 徳本峠着 晴れ 展望最高 10:50発 兼岩, 河西さんと合流

12:15 白沢合着: スリープのわたり方, ピカル9-7台とまじり

1:15 徳次園着 1:25発

3:15 BC着 1588手前 新村橋の先で前隊各々の説明を3分。

### 感想

徳本峠への最後が非常にきつかった。

体力の存在が何となく分かった。でもBCに着いた時は本当にうれしかった。

6/2 記入者 吉沢

A 10-11- 4-11- 藤正 田尻 安保  
高橋 流 小林 石井 吉沢

4:15 BC

6:30 洞沢に之山の説明

7:40 洞沢の上で雪上訓練

12:30 B 10-11-と合流し、3-6の洞に着く

13:00 6峰

16:30 BC

感想 ぐぐぐはなかなか雪訓よかった  
6峰からの眺めはすばらしい

6/2 記録者 松本

Bパーテ-

上橋口止

場所	時刻	状態	メンバー
BC	4:15	○	三木 三木 田尻 谷 博 松本
1950地点	4:18 6:00	○○	
洞沢	6:30 7:20	○○	
洞沢の上	7:40 10:35	○○	
前橋5.6a	12:30 12:30	○○	
6峰	13:00 13:24	○○	
5.6a洞	13:34 14:00	○○	
洞沢	15:02 15:14	○○	
BC	16:23	○	

行動開始

休憩

休憩と山の説明

雪上訓練

ザクザクして6峰へ

雄大な展望を満喫す

休憩

行動終了

感想

- 天気がよかったので山頂からの眺めはよかったけど、すぐ続けた。
- 雪訓は1年生が上級生に比べるとなかなかやって、ひどかった。けれども3人雪上技術を学んでよかった。

1/3 記入者 吉沢 Aパーティー L橋口さん 田尻さん 高橋さん 中村さん  
 2:30 起床(エッセイ) 松沢さん 小林 流 吉沢  
 4:15 B.C.  
 6:15 涸沢  
 7:35 白出のツルと涸沢の内で雪割。  
 11:50 白出のツル  
 12:55 涸沢岳  
 16:37 B.C.

感想 今日、走り出しからと足に左足がまったくまったくな、左  
 足から下たまで、太く力が入らな、やれやれ、  
 雪割の途中で、宇保さんに「もういい、スティーブセカ、ア  
 休ム!!!」と言われた時は、くやしき涙が出た。  
 O.B.の長谷川さんが、本当にみぞをこわしたとみぞしたが、  
 いたくなるといっていたが、僕は、みぞのうらみからモモに  
 かけて、しびれるより白瀬さんが走るので、たがんで、少しも  
 かしらがえたのたさう、さうであってほしいと思う。  
 でも正確はできな、左足はまったくみはな、  
 歩いている時や雪割中は、泣き事を言うかと、O.B.の長谷川  
 さんと先輩の長谷川さんに言われたので、明白、実際  
 にか、ていする時は泣き事を言うのはやめようと思う  
 が、できな、ことばできな、と思いき、うが、おまけと、  
 やばい気がする、でも「もういい」と言われたり、  
 なくつらい気がする、んー、まったく、  
 なくつらい気がする、んー、まったく、

1/3 記録者 松本 Aパーティー L藤江さん 望森さん 神山さん 長谷川さん 三木  
 田辺 石谷 博多 松本

4:30 OBC迄 涸沢小屋の前の斜面で海軍は直上の練習。6:40 涸沢着。Eの後ザイングラド  
 下の斜面で雪割(7:35~9:50)。全員行動で白出のツル(11:47)経由、涸沢岳(12:55)、  
 グラドで涸沢(15:24)へ戻り、BC(16:37)へ。感想、本物雪割の涸沢岳からの展望は  
 本物の雪割を忘らさせてく。

6/4 (木) A パーティ 記入者: 松本

メンバー L 藤江さん, 田尻 地, 三木 地, 松沢 地, 石井, 松本

BC 4:30 の発 途中1回の休憩 (5:10~5:50) を入れ, 6:40 洞沢着.

休憩の後 パーティ 行動 に終り カール南側の斜面で雪訓 (7:27~10:20).

内容は直上・直降・斜上・斜降・トランスの歩き方, クリセド・ソリセド, ビンダストップ.

その後 全員洞沢へ戻り (10:40), 13年生は下山. BC 12:20 着.

感想: よいかかわらず先輩たちは厳しいが, その方がむしろいいことな

早く覚えらると思う. 雪訓も回とならぬると次はとならぬないようにしようとする

ので, 次第に体で覚えらるようになっていく. 先輩達だって僕たちのためを思

とてくわしい? のだから素直に耐えよう. とはいってもつらいものはつらい...

今日は早く行動が終わったので, 自由時間があつてうれしかった.

6/4 (木) B パーティ 流記 (L 橋口 地, 長剣 地,

Esom 走床 3:00 流, 田辺, 小林

河原集合 4:25 神山 地, 長剣 地

屏風岩と回り込んだところで一本 晴れ 5:30

洞沢ヒュッテ前で直上訓練

洞沢ヒュッテにて一本 6:51

クリセド・横すべり訓練 曇天化

小休止 8:15

直登, 斜登下高 トランス, 直降 訓練

小休止 9:10

洞沢ヒュッテ横で他 Party と合流, 大休止

12:00 交信 (無線機にて)

BC 着 12:30

小雨 パラマ

その後 14:30 頃まで BC で休養

晴天化



感想 今日昨日までの行動に比べ楽であった。休養時間がある、  
たこでゆとりがもてよかたと思う。一年生は疲労と靴ずれその他  
諸々の理由でピンチが上からない。先輩も靴ずれ鳴らなくなってくる。  
僕も靴ずれがひどく、化膿しはじめています。やはり靴は自分でお金を  
出して買ってこないとダメで済むか、いや私は買わずにおこう。(反語)  
ピッケルスタッフが何度やっても止まらない。雪面に顔とこすりつけるため、  
キズだらけになってしまふ。本堂に降るようなグズグズ斜面で止まるのた  
りか、誰か……

6/4 (木)

Cパーティ

記入者：博乃

member

L. 長谷川 弘, 安保 弘, 高橋 弘, 広谷, 吉沢, 博乃

BC. 4:30 発

休憩 5:20 〇 ~ 5:55 〇

洞沢着 6:50 〇

その後、洞沢ヒュッテ西側斜面で雪訓 7:30 〇 ~ 10:25 〇

洞沢発 10:40 〇 (1,3年生)

BC着 12:22 〇

(直上, 直降, 斜上, 斜降, トラバース  
グリセ-ド, シリ-ド, エンジェルスタッフ)

<感想>

毎朝1P目はつらい。先輩達にいつか怒らねか。合宿後にはきっとバカフルになつていこう。  
おは。今日は初の休養日で、体が回復してきそう。そうだなと困るが、疲れが一気に  
出たよ。たぶん合宿もきついな。

6/4 (木)

記入：三本

10:40 沼沢

メンバー：~~四~~姓、安原と除く典生

雪訓練

13:40 沼沢発

14:50 バス着

感想：逆ウルトラスピンのストロークはすごいものだ。

6/5 (金)

記入：三本

メンバー：全員

4:05 出発

◎

5:30 松高尾根の下の砂防ダムにつく。

◎

石井、吉沢、松本は徳沢園で待つ。

6:00 出発

◎

7:15 松高尾根 1870m ほどの場所に着く。

◎

9:00 フィックスを2本はる。アツシユの通過にてまじる。

◎

9:30 全員 フィックスを通過する。

◎

10:30 奥又白池着。1mm 程度の雨が降り、風もでてきたので雪訓練をやらずに下山することにする。

13:30 砂防ダム着。

15:00 B.C 着。

石井、吉沢、松本の3人は 14:00 に徳沢園を出発し。

15:15 に B.C に着いた。同行は三本、藤江。

感想：明日も天候が悪そうなので気になる。

6/6

# 記入 大谷

メンバー 吉沢, 石井を除く全員 吉沢研はテトキも出

3:35 B.C 行動開始 晴れ

4:43 一保小屋 ) 休憩

5:01 出発

5:42 ) 檜沢ロッジ (休憩) いかの 喜庵はここで待つ。

6:04

7:20

7:33

) 大田 (休憩)

11:20

11:28

) 檜の肩

12:15

12:30

) 檜ヶ岳山頂

13:21

13:40

) 檜の肩

15:34

18:03

檜沢ロッジ

B.C 行動終了

いかの 喜庵も一緒に帰る

感想: 檜ヶ岳山頂には、みしなからず、いぶん遅れて到着した。普通の山道も走つていかに雪山となるとさらに歩けなくなってしまう。早くみんなと一緒に歩けたほうが良かった。

6/17 記録: 三木  
全員行動

6:20

◎

7:40

B.C. 発

◎

8:42

新村橋 着

◎

~~8:50~~

9:10

徳沢園着

9:30

徳沢園発

11:15 頃

トア上高地着. 12:00までに全員そろふ.

夕にて 信入に向かう.

13:50

BOX前着, ミーティング

### 会計報告

収入: 15,000 × 19 (部員より)

+ 30,000 (高橋OBより)

計 315,000 円

315,000

- 201,154

残 113,846 円

支出: equipment: 14,549

essen : 135,295

交通費 50,820

雑費 490

計 201,154 円

essen: 1019 円/人, 日

## 《 装備 》

( 記録簿 )

消費量) マタ	53本 (96本)	7.5本/日
ガス	7.5L (18L)	70ml/日・人
ローソク	4本 (6本)	0.6本/日

ビナが5枚消失した。チェックをきちんとするべきだった。

## essen 反省.

米の量を去年より0.2合/人増やし、2合/人にした。1、2年が多いので、これで問題なし。ただし、「たまごみこぼん」は臭いがはいるので、出来上がり量が増えることを考慮に入れるべき。味付けが濃い、という意見もあった。

朝、昼、おやつ、レーション、予備食、中食、いずれも問題なし。夜のおかずの野菜・肉・ルーの量も適当。ぶりかけセーフものは、一年ぶりが為にももう少しあってよかったおやつ。今回は一人分のぶりかけがなかった。お茶葉は、1回に使う分をあらかじめわけていくとよいと思う。それから、レードは3本もいらぬ。1本で十分。

最後の夜については、上級者がたくさん野菜をモってあがってきてくれたことに加え、4又糎もあった為、小麦粉2kg(去年は1.5kg)をつかいました。卵とカタクリ粉も投入してそれでも足りない様であったが、それ以上作る必要はないと思う。油、天ぷらともに適当。

感想は、たくさん食べれば、決局ピラフもたまごみこぼんも変わらないものだ。2回もいれてしまったマカポテは、意外においしいものだった。

( 本誌 )

新人合宿おっかれ様でした。1年生は様々なっらい思いをしたでしょうか。今後の基礎となるのでがんばって下さい。2年生は色々と反省するべき点があるでしょうか。今後改めていって下さい。決して1人よがりになって会の意思からかけ離れていけないように。私も色々と思い知らされる面があった山行だった(田尻)

### 新人合宿の反省

伊半野 達也

中4日参加で至るに上級生に負担をかけた。リーダー部員としてしっかり働けなかったと反省している。みんな目標をもつかんはらう。

### 反省

高橋 敦

今回の合宿は体調が悪く、他の人に大きな迷惑をかけてしまった。上級生が僕たちに持っている不満はすなわち闘志がないということだろう。しかし正直いって僕はあまり無理をして悪くしなくなかった気持ちがある。これは確かに甘えではある。たかが胃炎とみて合宿に参加したことじたい間違っていたかもしれないがよくわからない。

しかし、今回の最大の反省というか失敗というか不調は自分が二年生としてどうあるべきかわからなかったことだ。これについてはいろいろと言いたいことはあるがやめておく。

## 感想と反省

神山利木

下級生のいる初めての山行で、当然今までは走り立場に立つのに、戸惑いだけで結局は自分のことだけで精一杯であった。それ以外の余力が伴わなければ人を指導することはできなるとひしひしと感じた。

確かに2年生としての力の無さを感じ知らされた。しかし、ただそれだけなら、これまでの一年間自分のしてきたことが無意味であったように思われ私は可成りのことにやる気を失った。一年生を通して、自分の足りない所が見えた反面、成長した部分も見ることができた。私にとって今回合宿に参加した本来の意義はここにあるように思う。

六峰や槍ヶ岳のロープで一年前、涸沢ヒュッテで一人待たされたこと、槍ヶ岳でフェルトに入って悔やみ涙を流してしまっただけのことか思い出されて何だかおかしかった。そして、遠くを見てあせってばかりいる自分がこたえに思えた。ようやく自分の山登りがわかってきたように。

これからは、素直に自分のペースで走らしていこうと思う。

## 新人合宿の反省と感想

とくにあえず力がない。一年の面倒をみるのも、上級生としての

役割を果たすのにも、過剰なぐらいの体力があって

ようやく、だと感じる。ぶりかえって一年前を想えば確かに

前よりもよくなっている。けれどそれでも足りない。

体力はいくらあってもかまわない。力をつけたい。

## 新人合宿 感想と反省

雨らしい雨の降らなかつた合宿だった。一年がたつ、再び六峰、油沢岳、槍ヶ岳へ登り、去年の新人合宿を思い出す。確かに自分でも成長したと思う。だが、山歴が1年あがつたことを考えると、あたりまえといえはあたりまえで、ともすると、力不足 努力不足のつかえないう2年生でしかない。もっとがんばれたのではなにか。

これからは、自分の行きたいところを自分でみつけて、またそれを目標に努力して楽しい山登りができたらいと思ふ。

松澤 朋子

## 新人合宿の反省

長谷川 哲也

反省しなかつたばならないこと、考えなかつたばならないことばかりが次山残ってしまった。とでかく書くと、そのすべてが言い訳のようになってしまふ。2年生とは一体何なのか？ 山岳会へ合宿とは何なのか？ こゝから考えなかつたばならない。2年生としての義務を果たすように努力します。

## 反省・感想 安保

天候に恵まれた合宿であったが、2年生としての自覚と気力に欠けた所があった。もっとリードしていかなければならなかつた。又、そのための体力や知識をつけていかなければならないと感じた。余り余裕もよく、1年生への注意も不十分であった。



## 新人合宿の反省と感想

一番の反省点は、全力を出しきれなかったこと。そのため、7クワの山には着いたとき、満足感が得られなかった。なぜ全力を出しきれなかったか。ケガをしたせいもあるが、そうならないための、体力と精神力が基本的に欠けていたと思う。次の目標の縦走合宿に向けて、常に全力を出しきれよう、この2点を重点を置き、精一杯トレーニングをとりこむと思う。又、穂ヶ岳には、やはり登りたかった。直上もトワもグワッシュもやれなうちは皆に達成感があり、あつた痛みも負けて残ったのだが、皆を待ちながら見上げる空の青さは悲しかった。来年は絶対に悔いが残らなう、1年をひらいて登りたい。

感想としては、はじめ、とても怖そうに見える上級生の皆様は、やはり怖かった。しかし、それは山に登っている間だけで、普段はいい人ばかりだと分かった。又、苦しいだけの合宿だったが、はやく楽しいようになつた。最後に、慰霊碑を拜んで、山で絶対に死んではいけない、と思った。

博乃

## 新人合宿の反省と感想 松本純高

この新人合宿で僕は様々な面で大きく成長したと思う。7泊という長くつらい共同生活ではあったが、そのつらさの中からはか得られないなにかを得たような気がする。とは言っても反省すべき点もたくさんある。事前に新人ゼミをやってもらったにもかかわらず、ちゃんと覚えていなかったということ。具体的にはテント設営の手順やエッセンの手順などで、特にエッセンは上級生に何度も同じことを注意されてしまった。起床に関しても上級生に起こされなければいつまでも寝ていたことだろう。このように今回は生活面に関して常に上級生に

頼りにならなかつた。まあ初めての合宿なので

仕方ない。とは思ってはいけないと思う。

今回上級生に言われたことは、次には絶対に言わ

れないようにしなくてはいけないと思った。

感想としては、快晴の中で前穂も峰と洞沢岳

に登れたことがうれしかった。登る過程が

ひどくつらかっただけに、山頂に立った時の喜び

が倍増した。この時だけは、やっぱり山はいいなあ

と思った。

## 反省と感想

田辺

この新人合宿が僕にとって初めての山登りであつたけれど、そればかり考えていたよりほろかいて楽しいもので、自分のあまじい思いを知らされました。今度山に登るときには体力をアップ、気合を入れているように思います。

新人合宿の反省

流竜一郎

新人合宿では何もかも初めての経験であつたので、向かにつけてズボラになっていたが、自分なりに手抜きはしなかったため、終わった時はとても充実感を感じた。ただし疲労感はその教習に及んだ。

振り返ってみるとエッセンがまだ未熟だと思ふ。朝は3分でキッチンとやりたし、T&Bを持ちながら夢と見ているというのを避けなければならぬ。あとほブスと扱う時の手際の異、物品をちゃんと整理しておくこと、課題は多数ある。今度の合宿では自分のセンスも發揮してキッチンと美しくおいしいものを作りたい。

もう一つ痛感したのは登山道具、とりわけ登山靴の大切さである。ズボラとこいて他人のと使用した、しかも小さな登山靴で臨んだわけが泣きを見るハメにまつた。最後の日は足がはれてしまい、靴下をぬかなければ靴に足が入らぬ有様だつた。登山用具は向いつとも大切なるものである。今後の許してはならぬ。常に最高の靴も体に合うものを使うことにしよう。

# 新人合宿の反省・感想

石井優子

“しんどい。辛い。暑い。8日間だった。  
 1日1日も自分のペースで歩いた日はなかった。  
 慣れなくて、くやしかった。  
 自分の体力・気力加人並みではないのがいやだった。  
 体力の乏しさは本当に自分には体力特に持久力が無いのを感じた。  
 歩く息が上がってしまい、汗が首筋を流る。  
 足で踏めなくて足の運びがのろくなる。  
 そしてお尻が痛くなる。  
 最後は“倒れられ、”お尻、この言わねえ所まで足を前へ運ぶ。  
 これ毎日繰り返したのだ。思えばお尻は息切れたらどうにか……  
 坂の急さ、坂の長さがトコトコ歩いたら私はお尻にお尻トコトコ歩いた。  
 イヤセでこの言わねえ所まで他の人も歩く。“早く!”を連発された。  
 お尻は痛かった。合計に遠くなる。と頭は分かっていても言わねえお尻。  
 合計に遠くなるお尻の距離を歩いた。  
 訓練で水平に歩かなくてはならぬ。怒鳴られた。しかしお尻は自分が  
 死ぬかお尻は歩かなくていい。怒鳴るに当然なのに。その瞬間を越えなくては  
 ならぬお尻も歩いた。  
 冒険にも書いたが今回の合宿は本当に楽しかった。  
 楽しいと思えば正直一瞬も歩いた。  
 夏合宿も冬合宿も大変だと思おう。  
 楽しいと思えなくてもいいから、くやしさを我慢して歩かなくてはならない。  
 夏合宿も冬合宿も体力・気力を削いで自分のペースで歩いた。  
 お尻は同じ日程をこなした。  
 お尻は歩かす!

山梨会の新人合宿として初めて山にのぼった。苦しい事だらけだった  
 が楽しい事もあった。しかし、それらの中にどのような喜びも見つけられなかった。  
 泣き事ばかりな気がした。汗を流すと言った喜びもなかった。  
 山に登る苦しみの中に小さな喜びを見つけることができなかった。  
 むしろ、コンプレックスの日にB.Cに残ったくやしさをただでしがみついて  
 いる今では、都度と上げてはむずかしいと思う。  
 深く言えないうけど、あまりしゃべると山のような課題に向かって  
 行く気がなくなりそうなので、これで済ませよう。

吉沢杉洋

今回の山行では自分の弱点かゝるに於ては、大  
 気が子のでそれを正直に書いてみたいと思ふ。  
 こゝに書くことによつて新夫に自分に刺激を與へ  
 今後の活動を活性化すよふかしたいと思ふ。  
 さてその弱点かゝる第1にはやはり体力の乏  
 である。それは初日からいさ存り感じてしまつた。  
 徳本峠を越え横尾まで行つた最後の林道で  
 は、か存りきつた。又、3日のピークハンティングの  
 時斜面をラッセルしたが、その時も前の人が了  
 進いつつて自分存り苦勞した。時前にはアルプス  
 公園までの往復のマラソン存とをまにや、ていたのか  
 が、あまり効果か存らなかつた。やはり美鈴湖存とを運  
 ぶ今後は体力の強化に努力したい。第2には精神力  
 の弱さかありなれりと思ふ。前の人が進いつつた  
 り、ラッセルの速く、やはりするに於て体力と精神力  
 の充実かやはり大切だと思ふ。自分をあまやかせず  
 常に昇上しよふと思ふこと、常に前には前かいる  
 という落ちつき、が非常に大切だと思ふ。そして  
 今後はこれらの精神力の少存さかやはりバテに  
 大きくつ存か、大株存気がする。こゝでやる存き  
 後で大存失敗につ存か子かと思ひ自分を昇上  
 せていきたいと思ふ。あまり悲愴的存ことばかりで  
 存く感想も書けは、全ノルマをて存せたいとが嫌  
 しい。最後に槍ヶ岳に登れた時は新人合宿中  
 で最もうれしか、大てである。昔した後は  
 きつと良い事があつたりと展望を持つことが  
 できた。これからはさらなる努力をツツクして上  
 級生の人達に追いつくよふかかんはりた  
 と思ふ。

作文 ～ 今までの山行、これからの山行～ 小林直哉

自分は山に登りつづけて今年も大卒。この昔くと  
かぶり大りな存のたか。一応、中学校1年生の時か5  
ワニターフォーケル部という部活に入り活動してきた。  
中学校に入ると存と存く友達を引き連れられて  
入った部活が今まで続いてい子わけてある。残存か5  
これには少し感心している。中学校では部員が知人  
近くい子大存部で月1回の山行を生徒が計画  
をたて夏合宿では泊夕日存との縦走をしてい  
た。週々回の活動で放課後か3時間程マラソン  
や、知スカントリーと呼称れ子階段を登り山道を  
走り存との訓練をしていた。たか5つ、この体力を  
その頃にしてはあ、たと思ふ。たか5と今一根性が  
存か、た。神経的存腹痛存と大存毎毎年存が  
まされてた。たか5年か気が弱いたりがもしれ存い。  
それでもその経験からか今度存も、とすこい山を  
登、てみた、という願望が生まれてきた。たか5高校  
ではま上わ子ワニターフォーケル同好会に入、た。その  
時は同好会でありその後自分が3年生大存、た時  
よりやく部活と存りHAC(日野台アルハイムクラブ)として  
奔走した。たか5まり言、て高校時代はあまり山に登  
存か、た。又、あまり山にも多くは行か存か、た。昔後と  
あまり訓練し存か、た。この3年間たか5あまり意味  
か存か、た。そう存、てしま、たのは数々の理由かま子のた  
か、一時はあまり山行か面白いと感じられ存い  
時もある。たか5その他のことも結局あまりよく  
いか存か、た。高校時代はこれといて語ることも存い  
位意味の存いものにしてしま、た。高卒の入試か始まる  
頃大存、てスイヤネホール存とのあ、たか5か5又々  
山へ行くてこの願望かよみかえ、てきた。者と登  
存とを思い、たは現在の登山界かと人存か5知子  
より大存、た。これか又山へ自分を引きも、と了結果  
と存、た。人間ヤマリ何か一つに集中してい子と

その他のことにも少し影響がでて全体的に充実した  
バランスのとれた状態といえるのであろう。今までは  
山で遊ぶことも目的としてきた。皆人々と  
楽しくランランという感じだったのかもしれない。  
何の目標もなかった。単に山に登りつづけてきた。  
でもこれからの登山は目的もかなり意識したの  
にしていくつもりだ。今のところ夢のまた夢だが、  
いつかは海外の高峰に登りたい。それだけ  
も具体的なきざし目標ももしれない。でも目標が  
できただけでも少しは進歩した。これによって自分が  
強く生きていくことができればいいと思っている。そして  
僕は最後まで自分の考えでいこうと他人から流  
れてはならないようにし、かつ生きていきたいと思う。何故  
やらせたり登山 自己の追求として他人に流れて  
しまわないものではないかと思ふからである。  
山岳会ではこれからの山を苦行するだけと、人生  
で何か一つ出来たという事を作りたいだけだと思ふ。

## 僕のヒルメシ

僕の普段の生活で一番の問題は、その名もヒルメシだ。F宿のメシ  
が、あまりうまくなく、オカズも少ないため、その分栄養を昼にはとらなければ  
ならない。しかし、5月にはある大きな買い物をして、うかつにも分割払い  
などというものにしてしまったため、毎月その恐怖に脅え、ついには常に  
懐具合が気になってしまっている。また、山の道具や本など、買  
ったものがたくさんある。

そのため、結局いかには食費が削げるか、ということになってしまう。メシ  
などは論外、レシヨンの残りも我慢。ジュースの自動販売機などは視界  
に入れてはならない。そして、いよいよお腹が満たさず、それで腹を満らす。  
しかし、一日の食、食えないと体がいうことではなかなか、何か食べなけ  
ればならない。そこで、いかには安く、とりあらず栄養がありそうなものを  
探すことになる。始めは、メシという魅力から、親が送ってくれたメシと  
生協のメシ茶、食いつなぐてい。しかしそれも尽きてしまった。カヤ

ラーメンとライスは、毎日と飽きまし、金の割にますし。友人の  
奇りな情報によると、セーター食堂では、ナシとミンシロがたどど食べら  
れらしい。しかしよく聞くと、手渡す時間がたつたためカウンターに置  
てあとの巨失敬してくらしい。そそ落ちぶれたくはなう。

また、別な友人が教えてくれた。最高のメニューだと。その名も、フジン  
ザケライス。これはライスだけ買ひ、カレー用の福神漬けを頂いて  
くる、というもの。これこそそそ一人になりたくなう。

結局落ち着いたのが、週一回うまものを食べ、あとは噂の100円メ  
ニュー、というパターン。100円メニューとは、半ライス(70円)に卵1個  
(30円)、というもの。これこそ我慢できるところだが、とりあえず炭水  
化物とタンパク質は補給できていよし、なにし安う。あの独特の卵  
ごはんの味は毎日食べてし飽きたらうぞ、当分これは好きそうだ。しかし  
これに打ち勝つ、強力なメニューがあったらお教え願ひたう。

博多

いっけい

田辺

僕は兵庫県の出身です。兵庫といつて  
思い浮かべられるのは神戸ですが、僕  
の住んでいる所は神戸のようにはなれて  
所ではなく、とてつもなくいい所です。周り  
は山ばかりで平地なんてほんのあり  
ません。名物も名所もなくてほんの何  
にもない所です。何にもないところか、他  
の所と違っていろいろかきしめませんが、  
住んでいる者にとって、これほどいい所  
も所もありません。だから、いやでいや  
でしかたがなかったのですが、このころ  
は、こんな何にもない所で、一日中ほけ  
〜として暮らさるのすういっけい、い  
くすいっけいを知っています。

信大生になる前 6年間 ありあけ学校の話。

石井優子

私は信大生になる前 6年間 静岡県西遠中野学園という名の  
女子校でありました。

この学校は 黄色いライノセーフ服を 6年間着る、中の水色  
1階、高3の水を 6年と呼び、水色制服、男子の名前は  
1階目から「菊・藤・蓮・日・雪・星」と決まる。  
全日制普通高校 でした。来校科目はない。

6年間 友達的面子や愛おしいので 4年まで知らない人はいた  
がる。それ以外に親しいか 友達に「負取る」「落とされる」  
というのをしはくたり、16~18の間で 相部屋「カマクラ」と  
化していました。世間で言う人は言う「女子校 = お嬢様学校」、この校は  
この学校に聞けば 面白いかな。

それ以外 外アゲは ありません。

友達に 結構な。あつた 知れぬ 女の子の せめて 優い子まで いたな  
子がいた。私は何とか上手に 入っていたから 1人暮らしにはな  
く 宿舎で 1人暮らしになる子もいた。女子校で 1人暮らし、これは かなり  
アゲたことがある。あつた、たつた、の 1人暮らし。知れぬ 子と 付き  
合っていた。

先生は 他に 英語教師 以外は 女性ばかりでした。

たつた 先生は「転勤」。という 2文字は 関係のない 20年、30年  
この学校に 勤めたり、たつた 先生もいた。彼の子を人は 職員室まで、  
「歩く 学園中」と 呼んでいた。

私は 中学 3年間を 現職に ついて、  
上級生と 木ヤンカを、史上最低の  
待遇を やり、勉強も けなげで 遊んで  
ばかりだったから、模試が 悪くて  
しつこく していたから  
やはり 6年間 この学校に いた  
おもしろいかな と思える。





## 新人合宿をおえて (反省 感想)

広谷 智子

新人合宿の印象を一言で言ってしまうのは、やはり「きつい」「つらい」の一言につきる。しかし私にとって初めての本格的な山行であった訳でもあり、始めのうちには早朝から山を歩けるのがうれしくて気持よく歩いていけるのも事実である。そんな気分は2日目の朝、突然「滑り」のかけ声とともに走り出した時点で驚きまた飲まれ、3日目から雪割が行われ、ついに最終日を持つ心境になってしまった。この合宿の中で何かつらかったかと言われたら、一も二もなく「雪割」と思い当たる。山に登ること事態がとんぱたきしくとて、一人目的地(または頂上)に着いてはしゃいでしまえばもうそれは遠い過去の出来事である。ところがセーセーヒー一言いながら歩きにくい雪道を登った後(この時点で私の体はほぼとんと限界まできている)雪割が行われ、運動神経の乏しいアラスカ人でも何とやら登りしうまく出来ず、一人急入りに何處も何處もつらさを感じた者はもう半泣きであった。そんな中でたまに先輩から優しい言葉をかけられると、まさに天の恵みだったし、みんな何ていい人なんだろうと思ってしまう。こんな私は、自分ばかりがもし水ないと思えた。

新人合宿をふり返って、自分なりに一番良かったと思えることは、まわりの目的地に行くことが出来たことである。もちろん、みんなから遅れまくって迷惑をかけたことは申し訳ないとは思っているが、あれで自分だけの積一杯であったと思う。これからはもっと力を注ぎ、余裕をもった歩行ようになりたい。



作文 「怒鳴られることによる体内ホルモンの増減」

① 新人合宿では雪訓後、それぞれのコルに出るまで必す一年生だけのトレスをつける半分競走めいたこととやらされた。これは御存知の通りトップが飛ばせるだけ飛ばして限界にたたら後者にゆすり、自分は最後尾につくというものである。トゼン先輩は怒鳴る、そしてトップを引っぱるように走ってハッパをかける。

② 僕は競技登山出身だからかも知れないが、あの様に激励されると、体がカッと熱くなり、「何が何でも前の野郎を抜いてやる」といった気持ちがかムクムク持ち上がってくる。すると足の痛みも忘れてしまい、そこから力が湧いてくるのか、あれ程くたひれていたのにまた少しの間飛ばすことが出来る。

③ 思ひにこれは体に特殊なホルモンが分泌されるためではなかろうか。「火事場のクリカ」というやつと程度の差をその水似た振り回るのである。人間が意識的に開放できる体の筋力は30%程だという。すると残り70%は潜在性というわけであるから普段は目につかないわけであるが時にそれが100パーセントが放出される。僕はそれと体内ホルモンのカギイであるを見た。おそらくステロイド系だと思ひがよくなる。それが例之は怒った時、身に危機がせまった時、ゴールする直前、等に分泌され、(これをホルモンの中枢のコーフンと呼ぶことにする)さらにいくらかの付加的な力を筋肉に提供させる。そのコーフンまでに産する心理的・環境的要素の量、質はそれぞれ異なるわけであるが、ここには知本人にとって同質の要因によってそのコーフンに達すると仮定しよう。

\* 読者は同量ではなく同質であるといふことに注意していただきたい。言いたいの、体力の異なる人とを相対すると、同じ程度の肉体的苦痛、心理的圧迫に達した時である。ここには同量といふことはすべし成立しない。

弱者を A、強者を B としよう。A の能動的に開放可能な筋力を 1 とし、

B のを 2 とする。すると二人の潜在的な力を加えた全体筋力は、

$A \rightarrow 3.33$        $B \rightarrow 6.66$  (近似値の係数 3.33) とする

非常に単純計算であるが、例之は"力を4出せば"打開できる局面と考えると

A はそれが出来ない、力が2必要の時には A は非常に苦痛と覚えること

だろう。しかし、これはあくまでも単純計算であって、本当は筋力開放能力も体力のうらた"と思ひ、慣れや心理的ゆとりも実力である。さらさらは

要素が加わればかたむかしの問題である。よその回は次の機会にでも考えます。

Date.

No.

⑧ 山は楽しく登りたい。その前提条件は体がある。また危険に置いた時にそれを回避できればさらに行動範囲が広がるし死ぬ確率も低くなる。

1年生のみほさん。頑張って面白い登山としましょう。

流記

僕は茨城県つくば市の出身である。だから僕のふるさとというはつくばということになってしまう。しかし僕はこの街をあまり好きではない。

つくば市は7年前に一村四町が合併してできた。人口約14万の都市である。昭和40年代に国の研究学園都市に指定され、広大な松林が近代的な研究機関の建物に変わった。現在、国・地方・民間の研究機関をあわせると100をゆうに超え、今もなお進出は続いている。

このように新しい都市であるため、街並みは整然としていて非常にきれいである。幹線道路はすべて2車線か3車線。歩道の幅は道路1車線分はあり、車道と歩道の間はやはり1車線分ある。そこに樹木が森のように茂っている。もちろん中央分離帯にも手入れの行き届いた植木がおい茂っている。松本なんかには比へたらずっときれいな街である。

しかしそのきれいな計画都市であるかゆえに、せつぱつとした商店街などというものが無い。つくり市街地というものが無い。カラオケボックスはこちに1軒、ボーリング場はあちに3軒というふうに、街としてのまとまりが無い。東京行きの直通バスが15分おきに出ているものの、鉄道が無い、駅が無い。そして他の人はどうだか知らないけど、僕にとってなによりもいやだったことは、山が無い。ということ。これは致命的だった。一応筑波山はあるけど、こちの山に比へたらほんの砂山。かければ30分で登れてしまう。

うーん。このようにつくばは、車を持っていて、山がなくても耐えられる人にとってなら、最高に住みやすいところである。けど僕にとってはやっぱり住みよくないところである。

印刷・発行・松本